

議事概要

開催日時：令和 6 年（2024 年）11 月 14 日木曜日 14:00～17:30

委 員：別紙 1（委員名簿等）記載のとおり（委員 5 名中 5 名出席）

関 係 者：国土交通省 港湾局 海洋・環境課（2 名）

事 務 局：ジャパンプルーエコノミー技術研究組合（5 名）

【議事要旨】

1. まず、前回会議から本委員会の委員構成に変更がないことを踏まえ、引き続き、佐々木淳委員が、本委員会の委員長としての職務を引き続き執行し、当会議においても議長となることにつき、その余の委員らにも異議ないことが確認された。
2. また、当会議において審議の対象となる各申請につき、利害関係を有するおそれがある旨の申告等がある委員については、当該申請の具体的な審議がなされる際には、離席その他の方法により審議に適宜参加せず、これにより、その審議の公正さを手続的に確保し、適正手続の要請を満たすべきこととされている。
そこで、当会議の審議に先立ち、当会議における審議対象である各申請について、利害関係を有するおそれがある旨の申告が、別紙記載のとおりなされたことも確認された。
その上で、各委員において、該当する各申請の審議に際しては、議場からの一時退出等、委員会の審議に不当な影響を及ぼすことのないよう適切な措置を講ずべき旨が確認された。
3. 続いて、まず、確実性評価についての考え方に関する一般論についての審議が行われた。
4. 次に、委員らが当会議の開催前に申請書及び添付資料を確認し、検討した別紙 2 記載の各申請のうち、特に重点的に対面審議すべき点を中心として具体的な審議検討が行われ、各申請内容等を踏まえ、それらの具体的な藻場面積の確実性及び吸収係数の確実性（以下、これらを併せて「確実性」という。）の評価等に関して審議がなされた。
 - (1) まず、前回会議において審議された申請プロジェクトのうち申請（JBC00000098）と申請（JBC000000107）につき、再度、確実性の評価等に関する審議がなされた。
審議の結果、いずれの申請についても、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨、また、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採

決された。

(2) 次に、新規申請プロジェクトに関して、确实性の評価等に関する審議がそれぞれなされた。

① 新規申請プロジェクトである申請(JBC00000127)につき審議するに先立ち、利害関係を有するおそれがある旨の申告があった佐々木委員は議場から一時退出した。これを受けて、その余の委員の互選により本件申請についての臨時議長として鈴木委員が選定された。その上で、当該申請につき确实性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨、また、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

採決後、佐々木委員は議場へ復帰した。

② 新規申請プロジェクトである申請(JBC00000133)につき、确实性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨、また、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

③ 新規申請プロジェクトである申請(JBC00000134)につき、确实性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨、また、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について、一部の資料(衛星写真)につきより解像度が高い元画像を確認した上で、検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

④ 新規申請プロジェクトである申請(JBC00000135)につき、确实性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨、また、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

なお、ここで、審査一般に際して、申請につきベースラインを確認すべき必要かつ十分な根拠資料が見当たらない場合にも、当該申請を差し戻

して補正を求めるか、当該申請を却下すべき旨もあらためて確認された。

- ⑤ 新規申請プロジェクトである申請（JBC00000136）につき、确实性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を異議なく採決し、これと併せて、審議の結果を踏まえ、補正後の当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

- ⑥ 新規申請プロジェクトである申請（JBC00000141）につき、确实性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨、また、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

- ⑦ 新規申請プロジェクトである申請（JBC00000151）につき審議するに先立ち、利害関係を有するおそれがある旨の申告があった佐々木委員及び長谷川委員はいずれも議場から一時退出した。これを受けて、その余の委員の互選により鈴木委員が本件申請についての臨時議長として選定された。

その上で、その余の委員により当該申請につき确实性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨、また、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

採決後、佐々木委員は議場へ復帰した。

- ⑧ 新規申請プロジェクトである申請（JBC00000164）につき、利害関係を有するおそれがある旨の申告があった長谷川委員は議場外において引き続き待機した。その上で、その余の委員により当該申請につき确实性の評価等に関する審議がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨、また、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量[t-CO₂]について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

採決後、長谷川委員は議場へ復帰した。

(3) さらに、継続申請プロジェクトに関しても、确实性の評価等に関する審議がなされた。

① 継続申請プロジェクトのうち、申請（JBC00000154）につき确实性の評価に関する審議がなされた。

委員から、申請書において保守的な算定がなされているかの確認を求めるべき旨の指摘がなされた。

審議の結果、当該プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を異議なく採決し、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量 [t-CO₂] について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

② その余の継続申請プロジェクトのうち、申請（JBC00000033）、申請（JBC00000140）、申請（JBC00000152）、申請（JBC00000157）、申請（JBC00000162）、申請（JBC00000167）、申請（JBC00000057）につき一括して、确实性の評価に関する審議がなされた。

審議の結果、当該各プロジェクトの妥当性確認がなされたものとして承認すべき旨を異議なく採決し、これと併せて、審議の結果を踏まえ、当該申請に係るプロジェクトの実施に伴う CO₂ 吸収量として申請された数量 [t-CO₂] について検証がなされたものとして認証すべき旨が異議なく採決された。

5. 以上のとおり審議・採決を行い、会議は終了した。

J ブルークレジット 審査認証委員会（令和 6 年度第 2 回）

別紙 1

委員名簿等

令和 6 年（2024 年）11 月 14 日現在

	氏 名	所 属 等	専 門 分 野	
委 員	岡田 知也	国土交通省 国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部 海洋環境・危機管理研究室長	沿岸環境、生態系サービス等	出 席
委員長	佐々木 淳	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授	沿岸環境、環境再生等	出 席
委 員	鈴木 健司	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター センター長兼検証審査部長	クレジット算定・検証・認証、 オフセット制度等	出 席
委 員	中西 敬	徳島大学環境防災研究センター 客員教授	生態系工学、沿岸域の環境修復	出 席
委 員	長谷川夏樹	国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源開発センター 沿岸生態系寒流域研究グループ グループ長	水産増養殖、海藻類等	出 席

J ブルークレジット審査認証委員会（令和 6 年度第 2 回）

別紙 2

J ブルークレジット審査認証委員会令和 6 年度第 2 回審議対象申請一覧

管理番号	プロジェクトの名称	審議等回避申告
JBC00000098	志津川湾ネイチャーポジティブな養殖とまなびの場創出プロジェクト	
JBC00000107	J-Power 若松総合事業所周辺護岸に設置したブロックによる藻場造成プロジェクト	
JBC00000127	姫路市網干地区におけるカルシア改質土を活用した藻場造成	佐々木委員
JBC00000133	「サステイナブル・アイランド奥尻」アクション 藻類による BC プロジェクト	
JBC00000134	未来を担う人材を育てる唐津湾ワカメ養殖体験プロジェクト	
JBC00000135	小さな島の試み：20 年以上続く佐久島の子どもたちがつくる藻場再生活動	
JBC00000136	全国一のモズク産地 沖縄県うるま市で挑む、天然採苗と海草保全による未来の漁業	
JBC00000141	がまごおりの里海（三河湾の藻場・干潟）再生プロジェクト	
JBC00000151	釧路東部地区天然コンブ漁場再生活動による CO2 吸収源増	佐々木委員、長谷川委員
JBC00000164	指宿市“山川の海のゆりかご”ブルーカーボンプロジェクト	長谷川委員
JBC00000033	三重県熊野灘における藻場再生・維持活動	
JBC00000140	北海道白老町 いぶり海岸の人工リーフにおける藻場つくりと漁業振興	
JBC00000152	循環型藻場造成「積丹方式」によるウニ増殖サイクルとブルーカーボン創出プロジェクト	
JBC00000154	御前崎港久々生（くびしょう）海岸里海プロジェクト	
JBC00000157	葉山町の多様な主体が連携した海の森づくり活動	
JBC00000162	横須賀みんなの海プロジェクト～海の幸を守る、育む、つなげる～	
JBC00000167	串浦の美しき藻場を未来へ繋げるプロジェクト	
JBC00000057	～魚庭の海・阪南の海の再生～「海のゆりかご再生活動」	
JBC00000160	未来に繋ごう！真珠のふるさと愛南町～幹縄筏が生み出すブルーカーボンプロジェクト～	